

第2群(活動報告)

石巻圏域における新型インフルエンザ対策－危機管理意識の向上と圏域内の協力体制づくりを目指して－

発表者(筆頭者)所属・氏名 東部保健福祉事務所 技術次長(班長) 小原由美子
大友隆幸, 巖岩美之, 佐藤健太郎

キーワード:感染症危機管理, 圏域対策会議, 机上訓練シナリオ作成

I はじめに

石巻圏域では平成 29 年度に病院・歯科医師会・医師会・薬剤師会・消防・市町等関係機関を構成員として「石巻圏域新型インフルエンザ等対策会議」(以下「圏域対策会議」)を設立した。会議の中で医療・行政等各機関の対応準備不足が課題として指摘されたため、平成 30 年度は①起こりうる事態への理解を深め、②対応準備の現状を情報共有し、③互いの役割分担と協力体制づくりを進めることを目的とし、取り組みを行ったので報告する。

II 方法

圏域内の医療体制の現状把握のため、インフルエンザ診療の現状及び「帰国者・接触者外来」設置意向を確認するアンケート調査を実施。その後、起こりうる事態への理解を深めるために、感染症危機管理の研修会を開催。これらを圏域対策会議で報告し、さらに各機関の理解促進と対応検討を進めるために、発生段階ごとのシナリオを作成し事前課題を付与、内容を持ち寄って机上訓練を実施し、課題を抽出。課題は圏域対策会議での検討へと繋いだ。

III 取り組み内容

- 1 アンケート調査:受入可能な病床数は想定される必要数を大幅に下回った。「帰国者・接触者外来」設置については前向きな病院もあったが、厳しい現状であることを把握した。
- 2 研 修 会:感染症危機管理の専門家による講演を行い、「最悪の事態も起こり得る」との危機意識を大変刺激される内容となった。
- 3 圏域対策会議:2回開催。圏域内発生時の医療予測(病床数、役割分担の必要性等)を提示し、対策の必要性を呼びかけて訓練を実施。実施後は課題を報告し、情報共有と課題検討の場とした。
- 4 机上訓練
 - i) 事前準備:発生段階を3つに分け、各段階ごとに機関共通・医療機関向け・行政等向けのシナリオ16枚を作成し、事前課題を付与、各組織で取り組んでもらった。
 - ii) 訓練の実施:参加者は20機関60名、医療、行政等ごとにグループワークを行った。グループワークでは課題を抽出し、全体で共有した。挙げられた課題は、医療体制づくり(感染者・非感染者の振り分け、分野ごと役割分担等、二次圏域及び全県としての検討も必要)、診療継続計画・業務継続計画(BCP)の作成・見直し等あり、課題は圏域対策会議での協議につないだ。

IV 考察

医療の現状を把握した上で研修会、訓練へと取り組んだことにより、目的①「起こり得る事態の理解を深める」ことができ、危機意識の向上に繋がった。また、訓練のグループワークにより現状と課題を話し合うことができ、目的②「対応準備の現状を情報共有」することもできた。さらに、訓練では協力体制づくりが必要である、診療継続計画や業務継続計画の作成・見直し等の新たな課題も見つかり、今後引き続き目的③「互いの役割分担と協力体制づくり」へと取り組む必要があると考える。

V おわりに

今年度は発生早期から感染拡大までの全体の取り組みを駆け足で行ったので、次年度は明らかとなった課題について取り組みたい。特に医療体制づくりのうちの「早期」の部分である「帰国者・接触者外来」の設置準備や医療機能調整の検討、BCP等の作成・見直しを研修会等で支援すること、市町体制の確認や地方対策本部との連携、訓練の継続などに取り組む。